

アメリカの日本移民排斥と白人主義

さてそこで、アメリカは日本に対してどうしたかと申しますと、日露戦争が終わった翌年に、米太平洋艦隊は、堂々と示威行進をして横浜にやって来ます。当時日本はアメリカに移民を送っていました。この移民に対して、米國は圧力を加えてきました。日本からの移民が一番多いカリフォルニア州で、まず日本人移民排斥がはじめられました。次のような例があります。日本人移民には土地の所有を認めない法律を作りました。また、日本では写真による見合い結婚がよくありますが、当時移民の青年も、日本の親戚等を頼って嫁さんの世話をし、写真を送って貰って、仲人の勧めで花嫁がアメリカに渡るといふこともありました。ところがこんな写真結婚の風習は認めないのです。移民した青年は日本の嫁さんを貰うことができなくなってしまいました。それから、アメリカの大審院では「日本人には、帰化による市民権獲得の資格なし」という判決を下しました。ヨーロッパの移民には、帰化による市民権を与え、土地を所有して子供を学校へ通わせる権利を与えていたのですが、日本人は差別されたのです。

一九二三年には「排斥移民法」が可決されます。米下院で三〇八対五八の絶対多数、上院でも六九対九で可決されます。日本からの移民は入れないのです。すでに入っている移民からは、その土地を取り上げる、帰化権を取り上げる、という無茶なことまでやったのです。これは中国人や朝鮮人にも同じです。つまり有色人種は移民させないということです。オーストラリア、ニュージーランド、カナダもアメリカに倣い、日本人の移民を拒否しました。白人豪州主義とかいって、有色人種を入れなくしたのです。

この白人主義の移民法によって、日本はアメリカにも、オーストラリアにも、カナダにも入れなくなり、人口過剰で貧乏の日本は、結局「満州へ！満州へ！」と向かい、満州が日本國の生命線となったのです。